

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390102178		
法人名	株式会社 かいごのみらい		
事業所名	グループホーム御領 (桜ユニット)		
所在地	熊本市東区御領3丁目8-52		
自己評価作成日	令和4年3月18日	評価結果市町村受理日	令和4年7月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.gh-seika.com/">http://www.gh-seika.com/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和4年4月30日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念である ①一人ひとりの想いに寄り添い②だれでも集えるアットホームな③毎日、笑顔で過ごせる④理想の「みらいのかいご」を目指します。を職員一人ひとりが理解・共感し職員自体が環境であることを、意識し開かれたホーム作りを目指しています。  
又、コロナ禍の中、ご家族との関係をより近くに感じるように、リモート面会・できる限りの窓越し面会を取り入れると共に、電話連絡を今まで以上に密にしております。  
最後に、コロナ禍であるからこそ職員間の連携を大切にし、ストレスが溜まらない人間関係を職員各々が構築していると思います。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して4年、コロナ感染症の収束が見えない中、外出の制限等の課題に家族の協力を得ながら外出の機会を作り、週1回のPTIによる運動療法、個別ケアとしての歩行訓練等工夫しながら室内生活にメリハリある日常を支援している。入居者・家族の熱い思いに応えホームでの最終章へ協力医療機関・訪問看護・職員がチームとして関わる等、コロナ禍のなかでグループホームらしい看取りを支援するホームである。新管理者という過渡期にあり、課題を見出し道路に面するという立地には危険回避として柵の設置、職員の気づく力の発揮や入居者への寄り添う姿勢等意識改革を図り、職員との良好な関係を作っている。家族へも“ひだまり新聞”写真付きの手紙”や電話、ホームページ等により情報を開示する等透明性のある運営とし、家族と連携しながら今できる最大限の楽しみ事や思いの実現に様々な構想も有り、実現に向けて始動いただきたい。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念並びに経営理念をリビング内、事務所等に掲げ朝礼時に基本理念の唱和を行い常に職員が目にして理解し実践できるよう心掛けている。	開設時に”ひだまり”のようなホームを目指し、ひ:一人一人の想いに寄り添い だ:だれでも集えるアットホームな ま:毎日、笑顔で過せせる り:理想の미래の介護を目指すを掲げ、掲示のよる意識付けや、法人全体として振り返りの場を作っている。また、ホームページにより開示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナが終息し平常時に戻れば地域の方々を招いて敬老会などを開催する。また地域の催しやふれあいサロンなどに出向きご利用者との交流を図る。	自治会に加入し、回覧板の受渡しはあるものの、新型コロナウイルスという状況の中では、地域との交流の取り組みは難しく、ホーム内での活動を充実させている。退院した入居者の表情から家族と相談し朝からのモーニングカフェに出かける入居者等安全に外出する方法を検討し、外出の機会を作ったことで外に出ることが刺激となり意欲的な生活に繋がったケースもある。	地域の行事等も中止となり、地域に出る機会を少ない状況はまだ続くと予想され、ホームに居ても地域の一員として出来ることを検討したり、近くにある小中学や保育園等との関係作り等に期待したい。コロナ感染症次第では外部との交流も検討頂きたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ終息後は、老人会や民生委員の方々に施設見学の希望があれば積極的に活用して頂きたい。ふれあいサロンでの講話や認知症声かけ訓練に参加していく。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は当面中止しており文書での通知を行っている。今後、コロナ禍のできる会合を目指したい。	運営推進会議は書面開催として、利用状況や事業所の状況、事故報告等を記し、自治会長や地域包括支援センター(ささえりあ)等の構成メンバーに持ち届けている。運営推進会議の開始に向け、自治会長等と開催場所等検討されており、開催される場合には家族へも参加を依頼されることが期待される。身体拘束委員会として研修資料や不適切アンケートの実施状況等を載せているが、運営推進会議の中での委員会は今は機能していない。	運営推進会議は回を重ねると形骸化しかねない。対面開催が困難な場合に備え、委員からの意見の収集方法を検討されることが期待される。対面での開催が出来る様な状況になれば、課題等を提示する事で委員の皆さんからの意見も出しやすくなると思われ、進行方法も検討頂きたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故があった場合は状況や原因、再発防止などの報告を行い指導、助言をいただいている。コロナ禍で認知症サポートリーダー研修の実習受け入れはできていないが終息時には介護相談員の受け入れも含めて進めたい。	事故報告に出向きながら適切な助言を受け、市の指導室とのコロナ感染に対するやりとり等新型コロナウイルスの情報を得たり、県からのアンケート調査に随時対応している。また、介護認定更新時に情報を発信している。地域包括支援センターからの入居相談も有り、相互協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に、委員会活動・勉強会を開催し職員間の意識向上を図っている。	身体拘束適正化委員会として現在は職員で検討している。特にスピーチロックとして、つい出てしまう声掛けについては意識変革を図っている。新管理体制となり、職員の話聞く時間を作り、課題である道路に面するという立地的環境の改善策として、入居者がいたい時には職員と一緒にいて行くことや、道路面への柵や花を植える事により玄関を開放する等がハード・ソフト両面から見直している。転倒防止の為に、家族の同意とケアプランに挙げ人感センサーを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の意識向上を図る為に3ヶ月に1度の不適切ケアチェックを行って虐待が起こらないよう又見過ごされることがないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修資料や内部研修にて理解を深めるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前のご見学の段階で料金表等を確認しながら説明し、また契約時に不明な点が無いか確認し納得して頂いたうえで契約を交わしている。料金改定時は文書の交付、同意書を頂き理解納得を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当者会議や運営推進会議の際にご家族に参加して頂きご意見や要望等を頂いている。またその都度意見や相談を受けたり意見箱を設置し運営に反映できるようにしている。コロナ終息時には介護相談員の派遣を再度進めたい。	家族へは窓越し面会とし、来訪時や電話等で要望等を聞き取りし、苦情相談簿に残し職員と共有し、ケアに反映させている。担当者会議には参加してもらい、意見や要望等を収集し、プランニングに反映させ、“ひだまり新聞”やブログ等により日常生活や行事等を開示している。	新たな管理者は家族との関係作りが取組まれており、更に家族との関係を更に密にするための施策を検討いただきたい。顔の見える介護とすることで、家族からも気軽に声を掛けやすくなると思われる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議に代表者も参加され意見や要望を伝えている。職員の意見を聞く機会として職員面談を実施。	ホーム長会議(月1回)や毎朝の朝礼時に管理者からの予定や会議での情報などを報告し、ケアマネジャーは担当者会議での情報等を提供し、事故・ヒヤリハット事例等を話し合っている。毎月の職員会議では事前に課題を提示し、個々の職員の考えを持ち寄って検討する体制としている。管理者変更時の個別面談の他、日々のケアの中でコミュニケーションを図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度への取り組みや管理者会議、定期的な会議に代表者も参加され職員の意見を伝えやすい場がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍でリモートでの参加にはなるが県主催の認知症研修や外部の研修など積極的に取り組まれている。内部研修は毎月担当者を決め行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で連絡会や他施設での研修には参加できていない。終息時には平常時と同様に研修等に参加し交流を通じながら情報交換を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者・主任が入居前に本人様、ご家族様空の情報収集や居宅ケアマネ、病院連携室などから情報収集を行っている。コロナ禍で面会は中止しているがリモート面会やドア越しで本人様のご様子やお顔を拝見して頂くなどし安心を確保できるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用者の性格や日常の動向、また食事の好き嫌い等の情報と共に、生活に関わっての要望等を聞かせて頂きながらご家族の不安の解消と共にご意見や要望があればいつでも申し出てほしい旨を伝えご家族の安心に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談等でご利用者、ご家族にとって今一番必要としているサービスを検討しつつ、他事業所等との連携を図り必要に即した支援対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者のこれまでの生活スタイルを尊重し生活に関わって、出来る事、したいこと、したいけどできない事等を見極めながら、洗濯物を畳んで頂いたり家事の一部をご利用者に無理のない範囲でお手伝い頂き関係作りに努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍のなか、現在は、リモートや電話、定期的なお手紙などによりご家族と密に連絡を取ることによって共にご本人様を支える支援を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時間の制限はあるがリモート面会や電話のできる環境を保持し、現状の状況でもご家族をはじめとする馴染みの方とのこれまでの関係が継続できるよう支援に努めている。	家族との文通を行う為に文字を書く練習として書き初めに取り組む入居者や、家族とモーニングコーヒーに出かける方等これまでの家族との関係性を継続させている、訪問やリモート面会、新型コロナウイルス感染症の状況により窓越し面会としており、家族中心の訪問となっている。馴染みの場所や人との関係は希薄になりつつあるが、今できる最大限の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや職員が間に入りご利用者同士の会話が生まれ孤立感や孤独感をできるだけ感じ事のないように努めている。テーブル席の配置転換も状況を見ながら調整を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後もこれまでの関係性を大切にしながら必要に応じてご本人、ご家族からの相談や情報提供依頼への対応、支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、ご家族から伺っている希望、意向を大切に、又日々の暮らしの中で変化していくご本人の希望にも柔軟に対応するように努めている。定期的にカンファレンス等で話し合い情報共有し対応している。	入居者の中には具体的に希望(外に出たい等)等今思っていることを話される方もあるが、入居者の状況を把握し言葉の裏にある真意を探るのも難しい面もあるが関わる中で入居者の話に耳を傾けている。これまでの生活歴等を家族に聞き取りし、しぐさや行動等で推察しながらケアに反映させている。耳が聞こえずらい事が遠慮に繋がる場合も有りえると捉え、他の入居者からの声掛けが出来るような配置とする等、プランに組み入れながら本人本位になるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族より情報収集しご希望が継続できる部分は継続できるよう職員が情報を共有しご利用者の生活が継続できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、介護記録等を作成し更に職員が気づいた事等を申し送りノートに記載し出勤時には必ず閲覧しつつ検討し個人の現状の把握、共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員と計画作成だけでなくカンファレンスでの他職員の意見やご家族、ご本人の意見、意向を参考に現状に即した介護計画が作成できている。	家族には担当者会議に参加してもらい、管理者・ケアマネジャー・担当職員との話し合いの場を作っている。家族の要望やホームでの取り組み等を話し合い、新たなニーズが生じた場合は随時検討している。定期的には半年毎、退院後の担当者会議の開催や、行事等の参加意欲低下等に家族との話し合い等をプランに直結させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、申し送りノート等の個々の状態や状況を記録することにより職員間の情報共有、把握と共にケアプランの作成や実践に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的な訪問診療、訪問マッサージ、訪問理美容、法人内のPTによる定期的なリハビリ支援など柔軟に提供支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状下では出来ていない状況であるが終息時にはボランティアの協力依頼や地域行時にも積極的に参加していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	R2.12月末日より、より良質なサービス提供を目指して協力医療機関を変更。系列のグループホームの協力医療機関でもあり複数の医師が常駐されており緊急時をはじめとする医療面での支援体制は今まで以上に手厚くなっている。	本人・家族の同意のもと全員が協力医療機関による2週間毎の訪問診療を利用し、家族には大きな変化が有る場合は報告している。毎日(月～金)協力医療機関からの訪問があり、状態変化には随時診てもらえる状況である。専門医については家族対応で受診に向いているが、困難な場合は管理者や看護職員が受診を対応している。歯科は必要に応じ訪問診療が行われ、新入居者には家族の同意のもと歯科チェックにより現状を確認し、日頃の口腔ケアに活かしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りノートや訪問診療ファイルを利用し情報共有できるようにし職員との情報交換を行い迅速に対応できるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者の入院時には、ご本人の状態把握するとともに安心できる入院生活が送れるように、また早期の退院が出来るようにご家族と入院先の相談員等と緊密に情報交換するように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	いずれ訪れるであろう重度化や終末期については入居時や担当者会議、状態変化時に説明、意向の確認を行うようにしている。	重度化・終末期支援について、入居時や担当者会議、状態変化時に説明し、意向を確認しており、全入居者がホームでの最終を望まれている。最期をどう迎えるか考える機会の必要性など担当者会議資料にも記されている。看取り支援時は、感染症対策を施し、可能な限り家族の面会を受け入れ、訪問診療、看護、職員がチームとして最終章を支援している。偲びのカンファレンスにより職員の思い等聞き取りし、今後に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアル作成し、内部研修で事例を交えながら急変や事故発生時に備えて応急処置や対応の指導を看護師よりおこなっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に関する訓練は定期的に消防署通報訓練も含め行っている。災害時の備蓄品に関しては、賞味期限等も確認しながらその都度補充を行っている。	昨年度は5月に昼想定で火災訓練を、2月に夜間想定で職員からの要望を受け、火災報知機の使い方をメインにした訓練を実施している。訓練後、防災業者より、火災が発生した場合は、携帯電話による連絡が適切であるなどのアドバイスを受けている。災害備蓄はリストを作成し確保しており、新たな備蓄品も準備予定である。自然災害に関する訓練や地域との協力関係については課題として捉えている。	ホーム建物周辺の可燃物やコンセントの埃など、今後は定期的な確認に期待したい。また、課題としている自然災害の訓練や地域との協力関係について実現が期待される。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	3か月に1回の不適切ケアチェックシートを職員に配布し日ごろのケアの振り返りを行っている。またスピーチロックについてのアンケートを行っている。	管理者は入居者の尊厳やプライバシーに配慮した支援は重要な課題であるとし、「介護をしてあげている」にならないなど、介護者の姿勢についても業務の中で伝えている。また、身体拘束を含めたチェックシートを活用し、振り返りの機会としている。呼称は全家族に要望や同意を得て、苗字や下の名前で対応している。職員の守秘義務については、入職時や会議の中で周知徹底を図っている。	居室へ入る際は在室の有無に関わらず、ノックを徹底されることを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけには十分に配慮しゆっくりと会話ができるように心がけている。できるかぎりご利用者の意に沿えるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者中心でないような場面も見受けられるので、業務等の見直しも含めご利用者のペースを大切に希望に沿って支援できるように努めて行く。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ヘアカットについては訪問理美容サービスを活用している。個々の身だしなみに注意し入浴後の更衣もできるだけ本人の意にそぐわないことがないように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	美味しそうな盛り付け、行事等で季節感を取り入れたり、手作りおやつをご利用者と一緒につったりしている。一部の方には準備や片付けを手伝ってもらっている。個々の好みに応じて工夫し美味しく、美しく食事をしていただくよう心掛けている。	献立はこれまで使用したものをアレンジしながら、専任者を中心に調理され、食材は専門店や地域商店も利用している。入居者から食べたいものなどの要望は殆どなく、給食委員会が写真やネットから出した料理を見てもらいながら聞き取っている。季節感や盛り付けも工夫し、1日は赤飯の日や行事食など入居者に喜んでもらえる食事を提供している。食形態は常食が殆どであるが、ミキサーやあらキザミ、二度炊きなど個々に応じて準備している。入居者は下膳や盆・茶わん拭き、ゆで卵の皮むきなどできる事にかかわっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好き嫌いや疾患に応じた摂取量の違い等を配慮し、調理や盛り付けを工夫している。水分摂取には嚥下状態も見ながら水ゼリーを味を数種類に分けて提供したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的な歯科訪問診療、指導を受けている。毎食後の口腔ケアを欠かさずに行い夜間帯は義歯を除菌し清潔を保持している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の生活の中で個々の排せつパターンを把握し、こまめに声かけ・誘導することにより失禁を減らしトイレでの排せつが継続できるよう支援している。	日中は全員トイレでの排泄を基本としているが、状況に応じトイレとポータブルトイレを併用される方もおられる。排泄用品も個々に応じて検討し、安易にリハビリパンツへ変更せず、可能な限り布パンツで過ごしてもらっているようにしている。オムツ交換を行う際は、プライバシーに配慮しながら居室へ移動し支援している。	自立で排泄をされる方も多く、常に気持ちよく使用が出来るよう、職員による小まめなトイレ内の確認が必要と思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご利用者によってはヨーグルト、ヤクルト等を提供するなどスムーズな排せつができるよう支援している。医師からの指示があるご利用者は下剤の服用を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の状況を見ながら対応し入浴支援に努めている。特浴設置により車椅子の方も負担が少なく入浴できるようになった。	基本的に週2回13時から15時の時間帯で入浴を支援し、身体状況に応じ機械浴が備わったユニットで入浴を支援するケースもある。入居者にとっては長湯は負担も大きいと捉えているが、冬場は可能な限りゆっくり浸かってもらえるように心掛け、同性介助への希望にも応じている。自立で入浴される方も多く、職員は個々の時間を妨げないよう確認や声掛けを行っている。苜蓿や柚子湯も継続して取り組み、季節を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者はその時々状態に合わせて休息できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個人のカルテ内にとじ職員が把握できるようにしている。薬は所定の場所に保管し与薬時は名前、日付、食事毎の確認、声を出して確認、チェック表にもサインをし責任の所在を決め誤薬あないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を参考に楽しみや気分転換を図るように努めている。お盆吹きなど役割を張り合いにされている方もいらっしゃるが負担にならないような配慮にも注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出は現在行っていないがテラスへの出入りは常時開放しておりプランターにて季節の花や野菜の栽培をしている。洗濯物を干したり思い思いに行動できるように支援している。	例年のような外出は難しい状況であるが、肌寒い季節も陽気の日にはテラスでお茶を楽しんだり、プランターでサラダ菜を育て収穫までを楽しみ、食事の一品として提供している。訪問当日も車いす利用者が、テラスで日光浴をされる姿が見られた。秋には県庁へ紅葉(イチチョウなど)に出かけている。家族との近くのファミレスでのモーニング等を楽しまれており、家族も次回の外出を心待ちにされている。	管理者はコロナ感染症といえどもホームに留まらず、安全に個別支援を含め、外に出る機会を作り意向である。バイパスを走って車両の多さを感じてもらったり、雨の日ドライブなどの構想があり、入居者の外出したい思いを引き出し、その思いに応えていただきたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が難しい方は規程にご家族から同意をいただき事業所にて預かり本人の希望にて買い物支援なども行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙は希望があればその都度ご利用いただけるよう努めている。但し、電話に関しては頻度、時間帯を考慮しご家族に無理のないように配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファを置いたりしてゆっくり過ごせる環境作りを心掛けている。四季の移り変わりを壁面装飾や居室の入り口の棚を利用して楽しめるようにしている。玄関の装飾も季節感が感じられるように努めている。	ホーム内は掃除や換気の徹底と季節感のある空間を心掛けており、玄関内には兜飾りやイラストを入れた月の予定表を貼ったスタンドボードが置かれている。入居者の描いたこのぼりは仲良く泳ぎ、季節感を醸し、廊下の壁面を利用した書は入居者の自信に繋がっている。ホールは団欒やリハビリに活用され、日常的な使用が少ない会議室は、コロナ感染症の状況を見ながらベランダと併せ、面会の場所として活用したいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的にはリビング中心になっておりご利用者が談笑されたり、テレビ鑑賞されたり、歌詞カードや大正琴の演奏に合わせて童謡を歌ったりと思い思いに過ごせるよう支援している。テラスには椅子を配置してゆっくり一人の時間を過ごせる工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身が書かれた絵やご家族との写真を飾ったりして心地よく過ごせるよう努めている。	新入居者には感染症対策を施し入室してもらい、パソコンやパンフレットなどではわからない雰囲気などを確認してもらっている。基本的に何でも使われていた物を持ち込んで欲しいことを伝え、持ち込み品リスト(電化製品、家具・寝具、介護用品他)に記録されている。整理タンスが備わっているが、馴染みの家具や収納ケースなど必要に応じ持ち込まれている。家族の写真や遺影、スーツや好みの衣類、時計も以前使用されていた大きな文字盤で確認しやすい物が置かれていた。また、下着を干すための小ハンガーと、プライバシーに配慮し目隠し用のタオルを準備された部屋もあり家族の思いが伝わってくる。	居室内の掃除や確認は担当職員が中心に行っており、不足の品などがあれば家族へ伝えている。また、個々の状況に応じて物品を別の場所で管理(衣装ケースなど)するなど、家族と状況を共有しながら居室環境を整えている。面会を控えている家族に代わって継続した取組に期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者が使われる場所などわかりやすく表示をしたりしている。ご本人ができることは多少時間がかかっても見守りながら行っただけである。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390102178		
法人名	株式会社 かいごのみらい		
事業所名	グループホーム御領 (榎ユニット)		
所在地	熊本市東区御領3丁目8-52		
自己評価作成日	令和4年3月18日	評価結果市町村受理日	令和4年7月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.gh-seika.com/">http://www.gh-seika.com/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和4年4月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念である ①一人ひとりの想いに寄り添い②だれでも集えるアットホームな③毎日、笑顔で過ごせる④理想の「みらいのかいご」を目指します。を職員一人ひとりが理解・共感し職員自身が環境であることを、意識し開かれたホーム作りを目指しています。  
又、コロナ禍の中、ご家族との関係をより近くに感じるように、リモート面会・できる限りの窓越し面会を取り入れると共に、電話連絡を今まで以上に密にしております。  
最後に、コロナ禍であるからこそ職員間の連携を大切にし、ストレスが溜まらない人間関係を職員各々が構築していると思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念並びに経営理念をリビング内、事務所等に掲げ朝礼時に基本理念の唱和を行い常に職員が目にして理解し実践できるよう心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナが終息し平常時に戻れば地域の方々を招いて敬老会などを開催する。また地域の催しやふれあいサロンなどに出向きご利用者との交流を図る。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ終息後は、老人会や民生委員の方々に施設見学の希望があれば積極的に活用して頂きたい。ふれあいサロンでの講話や認知症声かけ訓練に参加していく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は当面中止しており文書での通知を行っている。今後、コロナ禍でできる会合を目指したい。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故があつた場合は状況や原因、再発防止などの報告を行い指導、助言をいただいている。コロナ禍で認知症サポーター研修の実習受け入れはできていないが終息時には介護相談員の受け入れも含めて進めたい。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に、委員会活動・勉強会を開催し職員間の意識向上を図っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の意識向上を図る為に3ヶ月に1度の不適切ケアチェックを行って虐待が起こらないよう又見逃ごされることがないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修資料や内部研修にて理解を深めるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前のご見学の段階で料金表等を確認しながら説明し、また契約時に不明な点が無いか確認し納得して頂いたうえで契約を交わしている。料金改定時は文書の交付、同意書を頂き理解納得を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当者会議や運営推進会議の際にご家族に参加して頂きご意見や要望等を頂いている。またその都度意見や相談を受けたり意見箱を設置し運営に反映できるようにしている。コロナ終息時には介護相談員の派遣を再度進めたい。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議に代表者も参加され意見や要望を伝えている。職員の意見を聞く機会として職員面談を実施。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度への取り組みや管理者会議、定期的な会議に代表者も参加され職員の意見を伝えやすい場がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍でリモートでの参加にはなるが県主催の認知症研修や外部の研修など積極的に取り組まれている。内部研修は毎月担当を決め行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で連絡会や他施設での研修には参加できていない。終息時には平常時と同様に研修等に参加し交流を通じながら情報交換を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者・主任が入居前に本人様、ご家族様空の情報収集や居宅ケアマネ、病院連携室などから情報収集を行っている。コロナ禍で面会は中止しているがリモート面会やドア越しで本人様のご様子やお顔を拝見して頂くなどし安心を確保できるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用者の性格や日常の動向、また食事の好き嫌い等の情報と共に、生活に関わっての要望等を聞かせて頂きながらご家族の不安の解消と共にご意見や要望があればいつでも申し出てほしい旨を伝えご家族の安心に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談等でご利用者、ご家族にとって今一番必要としているサービスを検討しつつ、他事業所等との連携を図り必要に即した支援対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者のこれまでの生活スタイルを尊重し生活に関わって、出来る事、したいこと、したいけどできない事等を見極めながら、洗濯物を畳んで頂いたり家事の一部をご利用者に無理のない範囲でお手伝い頂き関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍のなか、現在は、リモートや電話、定期的なお手紙などによりご家族と密に連絡を取ることによって共にご本人様を支える支援を提供している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時間の制限はあるがリモート面会や電話のできる環境を保持し、現状の状況でもご家族をはじめとする馴染みの方とのこれまでの関係が継続できるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや職員が間に入りご利用者同士の会話が生まれ孤立感や孤独感をできるだけ感じ事のないように努めている。テーブル席の配置転換も状況を見ながら調整を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後もこれまでの関係性を大切にしながら必要に応じてご本人、ご家族からの相談や情報提供依頼への対応、支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、ご家族から伺っている希望、意向を大切に、又日々の暮らしの中で変化していくご本人の希望にも柔軟に対応するように努めている。定期的にカンファレンス等で話し合い情報共有し対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族より情報収集しご希望が継続できる部分は継続できるよう職員が情報を共有しご利用者の生活が継続できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、介護記録等を作成し更に職員が気づいた事等を申し送りノートに記載し出勤時には必ず閲覧しつつ検討し個人の現状の把握、共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員と計画作成だけでなくカンファレンスでの他職員の意見やご家族、ご本人の意見、意向を参考に現状に即した介護計画が作成できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、申し送りノート等の個々の状態や状況を記録することにより職員間の情報共有、把握と共にケアプランの作成や実践に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的な訪問診療、訪問マッサージ、訪問理美容、法人内のPTによる定期的なリハビリ支援など柔軟に提供支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状下では出来ていない状況であるが終息時にはボランティアの協力依頼や地域行時にも積極的に参加していく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	R2.12月末日より、より良質なサービス提供を目指して協力医療機関を変更。系列のグループホームの協力医療機関でもあり複数の医師が常駐されており緊急時をはじめとする医療面での支援体制は今まで以上に手厚くなっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りノートや訪問診療ファイルを利用し情報共有できるようにし職員との情報交換を行い迅速に対応できるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者の入院時には、ご本人の状態把握するとともに安心できる入院生活が送れるように、また早期の退院が出来るようにご家族と入院先の相談員等と緊密に情報交換するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	いずれ訪れるであろう重度化や終末期については入居時や担当者会議、状態変化時に説明、意向の確認を行うようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアル作成し、内部研修で事例を交えながら急変や事故発生時に備えて応急処置や対応の指導を看護師よりおこなっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に関する訓練は定期的に消防署通報訓練も含め行っている。災害時の備蓄品に関しては、賞味期限等も確認しながらその都度補充を行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	3か月に1回の不適切ケアチェックシートを職員に配布し日ごろのケアの振り返りを行っている。またスピーチロックについてのアンケートを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけには十分に配慮しゆっくりと会話ができるように心がけている。できるかぎりご利用者の意に沿えるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者中心でないような場面も見受けられるので、業務等の見直しも含めご利用者のペースを大切に希望に沿って支援できるように努めて行く。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ヘアカットについては訪問理美容サービスを活用している。個々の身だしなみに注意し入浴後の更衣もできるだけ本人の意にそぐわないことがないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	美味しそうな盛り付け、行事等で季節感を取り入れたり、手作りおやつをご利用者と一緒に作ったりしている。一部の方には準備や片付けを手伝ってもらっている。個々の好みに応じて工夫し美味しく、美しく食事をしていただくよう心掛けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好き嫌いや疾患に応じた摂取量の違い等を配慮し、調理や盛り付けを工夫している。水分摂取には嚥下状態も見ながら水ゼリーを味を数種類に分け提供したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的な歯科訪問診療、指導を受けている。毎食後の口腔ケアを欠かさずに行い夜間帯は義歯を除菌し清潔を保持している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の生活の中で個々の排せつパターンを把握し、こまめに声かけ・誘導することにより失禁を減らしトイレでの排せつが継続できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご利用者によってはヨーグルト、ヤクルト等を提供するなどスムーズな排せつができるよう支援している。医師からの指示があるご利用者は下剤の服用を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の状況を見ながら対応し入浴支援に努めている。特浴設置により車椅子の方も負担が少なく入浴できるようになった。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者はその時々状況に合わせて休息できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個人のカルテ内にとじ職員が把握できるようにしている。薬は所定の場所に保管し与薬時は名前、日付、食事毎の確認、声を出して確認、チェック表にもサインをし責任の所在を決め誤薬あないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を参考に楽しみや気分転換を図るように努めている。お盆吹きなど役割を張り合いにされている方もいらっしゃるが負担にならないような配慮にも注意している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出は現在行っていないがテラスへの出入りは常時開放しておりプランターにて季節の花や野菜の栽培をしている。洗濯物を干したり思い思いに行動できるように支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が難しい方は規程にご家族から同意をいただき事業所にて預かり本人の希望にて買い物支援なども行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙は希望があればその都度ご利用いただけるよう努めている。但し、電話に関しては頻度、時間帯を考慮しご家族に無理のないように配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファを置いたりしてゆっくり過ごせる環境作りを心掛けている。四季の移り変わりを壁面装飾や居室の入り口の棚を利用して楽しむようにしている。玄関の装飾も季節感が感じられるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的にはリビング中心になっておりご利用者が談笑されたり、テレビ鑑賞されたり、歌詞カードや大正琴の演奏に合わせて童謡を歌ったりと思い思いに過ごせるよう支援している。テラスには椅子を配置してゆっくり一人の時間を過ごせる工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身が書かれた絵やご家族との写真を飾ったりして心地よく過ごせるよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者が使われる場所などわかりやすく表示をしたりしている。ご本人ができることは多少時間がかかっても見守りながら行っただけです。		